



広重版画より 三島 朝霧

第2335回例会

2022.10.27晴

司会

小塚英樹君

MC

「日も風も星も」
指揮 杉崎亮慈君

会長挨拶

副会長 平出利之君

東京六大学と言ったら、どこの大学かご存知でしょうか。慶応・早稲田・法政・明治・東大・立教になります。これは東京六大学野球連盟に加盟する大学を指し示す大学になります。1925年に出来ました。東京六大学野球連盟のシンボルマークを置いてありますので、ご覧になってください。東京六大学野球は大衆娯楽・文化としての野球競技の人気を一般に浸透させたそうです。その後、1936年に7球団でプロ野球がスタートして、プロ野球の人気が高まっています。現在では、東京六大学の冠をつけて東京六大学〇〇連盟・〇〇大会・〇〇定期戦等数多くのものが存在しております。在学生はもちろんのこと、卒業しても色々な形で使われています。

“こんにちは、ようこそ”

ゲスト 小川成俊さん
(関本(文)・矢岸・岩崎君のゲスト)
仲田崇浩さん
(関本(文)・須田・野田・前田(房)君のゲスト)

出席報告

	出席総数	出席率	メ ッ ク	修 出 席 率
前々回	42/51	82.35%	45/51	88.24%
今回	42/50	84.00%	会員総数	55名

欠席者 秋元君、木村君、諏訪部(照)君、南木君、野田君、橋本君、藤江君、森崎君

幹事報告

幹事 古屋英将君

- ①本日の卓話者は酒井丈(たけ)暢(のぶ)さんです。よろしくお願ひします。
- ②10月のポリオデーに際し、ポリオ募金活動を三島RC、せせらぎRCと合同で行います。
日時:10月29日(土)13時~15時
場所:イーヨーカドー
服装:三島西RCジャンパー
三島西RCからは11名の参加を予定しております。よろしくお願ひします。
- ③11月6日の地区大会 参加者9名の予定です。
交通手段は電車を予定しております。
- ④11月の予定です。11月はロータリー財団月間です。
3日:祝日休会
10日:夜間例会・臨時総会・卓話はロータリー財団:柴崎恵子委員長です。
24日:通常例会・卓話は南木一仁さんです。

おめでとう

会員誕生日 窪田君
入会記念日 諏訪部(敏)君、遠藤(正)君、
矢野君、窪田君、岩崎君、佐野君、
関本(文)君、花房君、和田君
結婚記念日 遠藤(正)君、町野君

スマイルボックス

- ◆伊丹君、寒くなりました。1年おきに作成している100%手作りカレンダー、間もなく出来上がってきます。女性の絵を3作つくりました。来年はうさぎ年という事で、今は月を見ているうさぎの夫婦を書いております。11月の例会で皆様にカレンダーを差し上げたいと思っています。お楽しみに～。
- ◆Dテーブル、先日楽しい食事会をさせていただきました。ありがとうございます。
- ◆和田君、テーブル会ありがとうございます。
- ◆ゴルフ同好会、第2回花房年度ゴルフコンペを10月20日(木)朝霧ジャンボリーゴルフクラブにて開催しました。優勝 加藤さん、準優勝 秋山さん、3位 相山さんでした。次回は11月20日(日)フジ天城ゴルフクラブにて開催します。

卓 話

コーチングについて

酒井丈暢君

<コーチングの定義＝「自発的行動を促進するためのコミュニケーション」>

- ・更に掻い摘んで言えば、「コーチ」とは古くは「馬車」のことを指し、「大切な人をその人が望むところまで送り届ける」という意味。更にそこから「人の目標達成を支援する」という意味で使われる様になっている。
- ・コーチングを行う者はコーチングを受ける者に、「新しい気づきをもたらす」「視点を増やす」「考え方や行動の選択肢を増やす」ための対話を作り出すとされる。原則として強制的に教えることはせず、その代わりに「問いかけて聞く」という対話を通して、相手から様々な考え方や選択肢を引き出すこととなる。

<実際の現場について>

「働く」中での実際の現場環境において、特に若年層との関わり合いが難しくなっているとされている。確かに勉強ができる人間が多い反面、「機転がきかない」「指示待ち」など、勿論その人その人によるが、「知識あっても知恵足らず」と感じる人材も多くなってきている(勿論優秀な人材も多くなる)。人材は正確には「人財」であり、その「人財」をどう育てていこうとするのかが、事業承継問題も含め共通して、組織のトップに立つ者の一番の課題となっている。

<「why」の励行＝「コーチング」>

「why」⇔「because」。ごくごく当たり前のこと。指示したことに対しては忠実にこなす者が多いが、それはただの作業に終わってしまっていることが多い。常に、報告を受ける際に「why」(何のためにやっているのか、なぜそうなっているのか)を求め、その際には「why」を最低5回は繰り返すことも必要。

大抵はそこで「あっ！」と気づき、そこで「because」を自らが考えることが出来る。指示された側も自らが常に「why」を最低5回は繰り返し、そして常に「because」を捉えることで、働くことの意義、やりがい等を感じ、コミュニケーション力を高めていくことのできる「人財」へと育成できることができる。

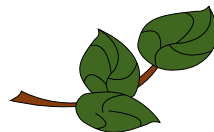
この「why」を繰り返すこと、繰り返させること。所謂、これがコーチング。

<皆が生き生き考働する組織創り>

「行動」⇒「考働」。逆でいえば「考働」がなければ「行動」はあり得ない。「行動」だけではそれはコスト。個々人が「考働」し「共働」することで、「生き生き」となる。更に言えば、「生き生き」＝「生活」＝「考働」「共働」となる。

ロータリー四つのテストにも実際に繋がっている。1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

結論として、私生活での一つ一つの「考働」、仕事場での一つ一つの「考働」が全てこれに当たる。自分自身も含め人財育成としても、「why」を繰り返す、繰り返させることでのコーチングを継続する。



(週報担当:森藤 賢)